



営農NEWS



露地ナス栽培で各種害虫の発生に注意しましょう

本県のナス栽培は、一部に施設を利用した周年栽培もありますが、主体は露地栽培です。

今後、気温が上昇してきますと、各種の害虫（アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類、ホコリダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ハモグリバエ類など）の発生が増加してきます。

これらのうち、微小な害虫は、発生を確認することがなかなか困難ですが、見逃して多発生しますと、難防除となってしまうので、圃場を丁寧に観察し、早期発見に努めるとともに、発生初期からの防除を徹底してください。

<被害と早期発見のポイント>

- 1 アザミウマ類は、主に葉や花弁を加害するヒラズハナアザミウマ、葉、へた、花弁などを加害するミカンキイロアザミウマ、葉、果実、へた、果梗などを加害するミナミキイロアザミウマなどがあり、加害種により症状が異なります。まずは、早期発見に努めましょう。遅れると、葉にかすり状の傷ができて、激しいと茶褐色に変色して落葉し、果実ではガク部を中心に変色や亀裂を生じて、商品価値を失くしてしまいます。
- 2 コナジラミ類は、葉や株をゆすると、白い羽の微小な虫が飛びだすので発見しやすいです。直接の吸汁害による生育抑制と、排泄物によるすす病の発生が問題となります。
- 3 アブラムシ類は、ワタアブラムシやモモアカアブラムシなどが、主に葉裏や展葉の先端部に寄生します。多発生すると葉の表面に脱皮殻やすす病が付着し、生育が抑制されます。各種のウイルス病を媒介するので、注意が必要です。
- 4 ハダニ類は、主に葉裏に寄生しますが、葉表から見ても脱色カスリ状に変色します。初期は下葉に寄生しやすいので、これを早く発見するようにしましょう。
- 5 チャノホコリダニは、生長点付近の葉が奇形となる他、葉裏がツヤのある淡黄色に変色して裏側に巻き込んで、激しいと芯止まりになります。果実は、ガクや果梗部分に変色し、果面がサメ肌状になります。虫は0.2mm前後なので、ルーペでも観察が困難です。一度芯止まりになると回復に長期間を要するので、大きな減収となります。
- 6 オオタバコガは、若齢幼虫では新芽や花を食害しますが、すぐに果実内へ食入します。齢期が進み、食害量も多くなると、次々と新しい果実に移動しますし、茎の中にも潜入するので、被害が大きくなります。ハスモンヨトウは、主に葉を暴食しますが、老齢幼虫は果実も加害して大きな被害となります。
- 7 ハモグリバエ類は、幼虫が葉肉内を食入する被害（いわゆる「絵かき虫」）で、ナスでは葉が黄化して落葉しやすくなるので、早めの防除に努めましょう。

表 1 ナス定植後の生育期における各種害虫の主な防除薬剤（平成 29 年 6 月 5 日現在）

薬剤名	アザミウマ類	コナジラミ類	アブラムシ類	ハダニ類	チャノホコリダニ	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類
スタークル顆粒水溶剤 ※	○	○	○					
ベストガード水溶剤 ※	○ミナミキイロ	○	○					
ディアナSC	○	○				○	○	○
ウララDF	○ミカンキイロ	○	○					
モベントフロアブル	○	○	○	○	○			
アフアーム乳剤 ※※	○			○	○	○	○	○マメ
コテツフロアブル	○ミカン・ミナミキイロ			○	○	○	○	
プレオフロアブル	○ミナミキイロ					○	○	○
コロマイト乳剤 ※※		○		○	○			○
アニキ乳剤 ※※		○			○	○	○	○
コルト顆粒水和剤		○	○					
スターマイトフロアブル				○	○			
カネマイトフロアブル				○	○			
マイトコーネフロアブル				○				
プレバソソフロアブル5						○	○	○
アタフロン乳剤 ※※※	○ミナミキイロ					○	○	
カウンター乳剤 ※※※	○	○				○	○	○
スタークル粒剤 ※		○	○					
ベストガード粒剤 ※			○					

注) 1. 表中のミカンキイロやミナミキイロは（アザミウマ）を、マメは（ハモグリバエ）を略して表示しました。
 2. 薬剤名※印はネオニコチノイド系、※※はマクロライド系、※※※は IGR(ベンゾイル尿素系)です。同一系統薬剤の連続使用は、避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。

